

古河の拠点拡張に着手

ヤマニ屋物流サービス
（相良拓弥社長、茨城
県境町）

年内には古河共同配送センター（古河市）隣接地で開発を計画している。造成工事に取り掛かれる予定だ。市の開発計画に関わる作業の遅れから、当初の計画から2年以上遅れての開発スタートとなる。2023年中には竣工を見込む。

同センターは、国道4



号バイパス沿いの交通の要衝に立地。現在、食品の共配センターとして、敷地面積5万平方メートル、それぞれ2万平方メートルの平屋建て倉庫と2階建て延べ床面積6600平方メートル

2棟の倉庫がある。今回は、隣接地3万3千平方メートルの敷地に、2万平方メートルの平屋建て倉庫を建設する。

これに伴い、同センターは敷地面積8万3千平方メートルに、延べ床面積で4万6600平方メートルの倉庫群が誕生する。ほかに、県内の拠点を中心に、合わせて延べ床面積で2万5千平方メートルの倉庫を所有しており、総床面積は7

万平方メートル超の規模になる。

20年度からトラックの増車計画を推進しており、22年度も30台程度の増車を予定している。これにより3年間で100台ほど増える。現在、トラック保有台数は340台になった。「人にやさしい新人教育」を徹底していることもあって、ドライバーは充足している。今後も基本は自社での拡大路線を目指す。うまくマッチングできればM&A（合併・買収）も視野に入れている。